

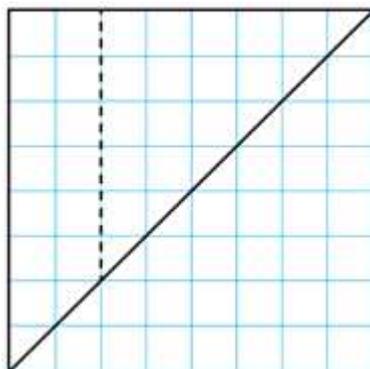
【平成30年度 適性検査Ⅱ 解答例】(桐蔭中学校)

研究1	課題1	<p>(例)</p> <p>資料1から農家数は減少している。資料2から耕地面積は増加している。これらのことから、農家一戸あたりの耕地面積が拡大していることが考えられる。</p>				
	課題2	<p>(例)</p> <p>キャベツ作りには適した気温があり、鹿児島県や愛知県、千葉県では、暑い時期をさけて、比較的暖かい冬から春にかけてキャベツを作り、北海道や群馬県では、夏もすずしいことを利用して夏から秋にかけて作ることで、市場は1年を通して安定してキャベツを入荷できるようになっていると考えられる。</p>				
研究2	課題1	<p>(例)</p> <p><b>説明</b></p> <p>「氷がとける」の「とける」は、水が固体から液体にすがたを変えることで、「塩が水にとける」の「とける」は、水の中で塩が全体に広がり、見えなくなって、とうめいな液になることである。</p> <hr/> <p><b>同じ「とける」</b></p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td>①「氷がとける」と同じ「とける」</td> <td>②「塩が水にとける」と同じ「とける」</td> </tr> <tr> <td>ア, イ</td> <td>オ, キ</td> </tr> </table>	①「氷がとける」と同じ「とける」	②「塩が水にとける」と同じ「とける」	ア, イ	オ, キ
	①「氷がとける」と同じ「とける」	②「塩が水にとける」と同じ「とける」				
ア, イ	オ, キ					
課題2	<p><b>アルミニウムカップに入れないほうがよい食品</b></p> <p>酢の物, こんにゃく</p> <hr/> <p>(例)</p> <p><b>説明</b></p> <p>うすい塩酸やうすい水酸化ナトリウム水よう液のように、酸性やアルカリ性の水よう液の中にはアルミニウムをとくものがあり、酢の物は酸性、こんにゃくはアルカリ性を示す食品だから。</p>					

研究 3

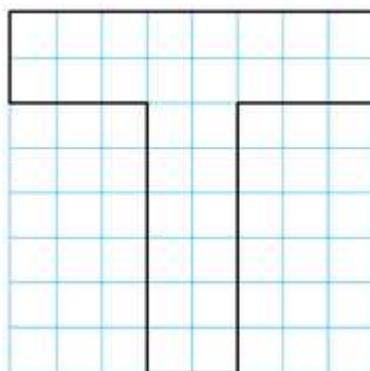
課題 1

(例)



課題 2

(例)

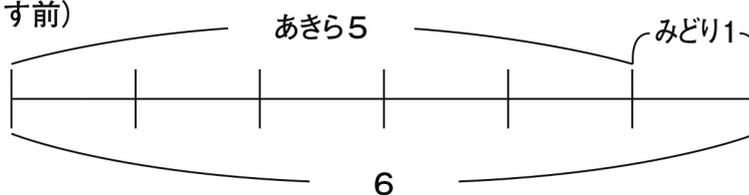


課題 3

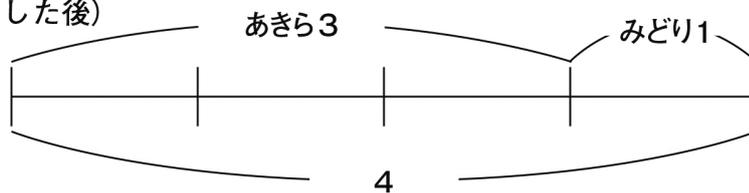
(例)

あきらさんがみどりさんに折り紙をわたす前と、わたした後を図で表すと、

(わたす前)



(わたした後)

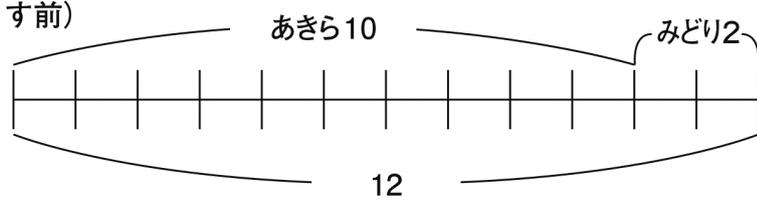


となる。

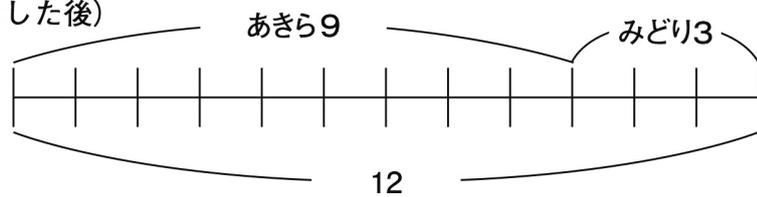
また、あきらさんとみどりさんの持っている折り紙のすべての数はかわらないので、図全体の長さは同じである。

それぞれの図を6と4の最小公倍数の12で等しく分け直すと、次の図のように、折り紙をわたす前の比は10 : 2、わたした後の比は9 : 3となる。

(わたす前)



(わたした後)



あきらさんがみどりさんにわたした折り紙の枚数は6枚なので、  
図全体を12等分した1つ分が6枚とわかる。

よって、6枚わたした後のあきらさんの折り紙の枚数は、  
 $6 \times 9 = 54$  54枚  
みどりさんの折り紙の枚数は、  
 $6 \times 3 = 18$  18枚

あきらさんが持っている折り紙の枚数 ( 54 ) 枚  
みどりさんが持っている折り紙の枚数 ( 18 ) 枚

研究4

課題1

(例)

タンクの中の水は6時間で

$1300 - 100 = 1200$   $1200 \text{ m}^3$  減るので、1時間に

$1200 \div 6 = 200$   $200 \text{ m}^3$  減っていく。

「管A」から、1時間に $400 \text{ m}^3$ の水を出すので、

$400 - 200 = 200$   $200 \text{ m}^3$ が「管B」から、1時間に入ってくる  
水の量となる。

タンクの中の水が3時間で $1200 \text{ m}^3$ 減るには、3時間で入ってくる水

$200 \times 3 = 600$   $600 \text{ m}^3$ と $1200 \text{ m}^3$ を合わせた $1800 \text{ m}^3$ の水を出すことになるので、

$1800 \div 3 = 600$   $600 \text{ m}^3$

1時間に $(600) \text{ m}^3$ の水を出すと、3時間で水が出るのが止まる。

## 課題 2

## 表

商品名	商品の値段 (円)	商品の個数
ノート	278	5
メモ帳	250	7
ボールペン	790	3

(例)

## 説明

まちがいとして、次の3とおりが考えられる。

1つ目は、ノートの278円が218円のまちがいである場合  
 $278 - 218 = 60$   $60 \times 5 = 300$  300円安くなる。

2つ目は、メモ帳の商品の個数の1が7のまちがいである場合  
 $7 - 1 = 6$   $250 \times 6 = 1500$  1500円高くなる。

3つ目は、ボールペンの190円が790円のまちがいである場合  
 $790 - 190 = 600$   $600 \times 3 = 1800$  1800円高くなる。

正しい表では3300円高くなるので、2つ目と3つ目の組み合わせになることがわかる。

よって、メモ帳の商品の個数が7、ボールペンの商品の値段が790円になる。